9　Okinawa Island Nurse Support Workshop(美ら島ナース支援研究会)

第１回　摂食・嚥下障害のケア

申請者氏名（代表者） 金城　利雄	所属部門	人間健康学部看護学科 成人看護学領域

企画名

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。ルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制が必要である。

ルーラルナースが必要としているトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染対策、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告し、討議を深める。本研究会は ICT を用いて、ライブストリーミングを行う。ICT による双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行う。

企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）

金城利雄、清水かおり、下地紀靖、玉井なおみ、認定看護師、専門看護師

氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
加藤　節子	和光園・認定看護師	摂食･嚥下障害ケア	情報提供	摂食･嚥下障害認定看護師
金城　利雄	名桜大学・教授	成人看護学	情報提供・司会進行	
清水　かおり	名桜大学・准教授	成人看護学	受付・会場係	
下地　紀靖	名桜大学・講師	成人看護学	AV 機器	
玉井　なおみ	名桜大学・助教	成人看護学	受付	
西田　涼子	名桜大学・助手	成人看護学	アンケート回収	

企画実施報告(参加人数等を明記)

参加者：29 名

最新の摂食・嚥下障害ケアの理解を深めるために、ゲストスピーカーとして、~~今年度~~摂食・嚥下障害ケア認定看護師をお招きして、「摂食・嚥下障害ケア　～食べることの意味～」についてお話しいただいた。講演内容は、食べること、摂食・嚥下機能、摂食・嚥下障害の実態、頚部後屈、そしてみなさんのケアが必要という５つの項目であった。講義の中では、日頃、意識することなく行っている摂食・嚥下機能を改めて実感することを目的に、以下のような演習も取り入れていた。

- 「マドレーヌ」を舌を使わずに噛んでみる、口をあけたまま顎を動かさずに飲み込んでみる。
- 舌のストッパー機能を実感してみるため、お茶を口に含み、顔を上に向けたままでお茶を飲み込んでみる、など。

さらに､嚥下動態を可視化できるビデオ内視鏡検査の動画など視覚的教材を活用し理解を深めることが出来た。そのほか、臨床で活用できる摂食・嚥下機能アセスメントツールの紹介、嚥下を予防する食事介助や口腔ケアについての紹介もあり、大変実用的な内容であった。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

21 人の参加者がアンケートに協力してくれた。

今回の研究会の総合評価（テーマ、内容など）は「良かった」19 名、「やや良かった」1 名であった。今回のテーマと関連した研究会への参加希望については「参加したい」19 名、「どちらともいえない」2 名であった。研究会の日程・時間帯・形式については、大半が「適切・まあ適切」であったが、もう少し遅い時間帯（19:30～）を希望する意見もあった。

自由回答では「わかりやすい説明でよかったです」「実際にマドレーヌや飲み物を口に含む動作もしてわかりやすかった」「実習などでもすぐ使える知識がおおく来て良かったと思いました」など、満足が得られたようである。今後開講して欲しいテーマには、関連した内容の「食事介助」「嚥下訓練の実際」「口腔ケアの実践」があり、今回の会で摂食・嚥下障害ケアの知識が提供され、次回は実践方法の提供をすることにより、地域で実践される摂食・嚥下障害ケア向上の一助になれると考える。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

近年、加齢や発達上の問題、疾病・治療による摂食・嚥下機能に障害をもつ人に対して、医療機関や介護施設、在宅など、さまざまな場所でより専門的で高度なケアが提供できる看護師が求められている。嚥下障害を抱える方の重症度はさまざまで、自分の唾液も飲み込めずムセる方から、姿勢・食形態・一口の量、飲み込み方を改善すれば食べることができる方、飲み込む力をつける摂食・嚥下リハビリが必要な方など多様である。摂食・嚥下障害患者は、口腔、咽頭、喉頭の様々な機能障害によって「誤嚥のリスク」を併せ持つことになる。このような患者の食事介助には、個々の嚥下障害の病態にあわせた誤嚥回避のための技術提供が求められる。摂食・嚥下認定看護師は摂食・嚥下障害看護において自らのケアを実践するとともに、看護スタッフの指導や相談に応じることが大きな役割とされている。

今後、現場のニーズがあれば、今回情報提供いただいた加藤節子認定看護師も交えて、「摂食・嚥下障害ケア研究会（仮称)」を立ち上げ、毎月、あるいは隔月開催も視野に入れていきたい。

写真：研究会の様子

第２回　災害時の院内での初動

申請者氏名（代表者） 金城　利雄	所属部門	人間健康学部看護学科 成人看護学領域

企画名

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。ルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制が必要である。

ルーラルナースが必要としているトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染対策、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告し、討議を深める。本研究会はICTを用いて、ライブストリーミングを行う。ICTによる双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行う。

企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）

金城利雄、清水かおり、下地紀靖、玉井なおみ、認定看護師、専門看護師

氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
清水　かおり	名桜大学・准教授	成人看護学	企画、進行、情報提供	
玉井　なおみ	名桜大学・講師	成人看護学	受付、アンケート回収	
西田　涼子	名桜大学・助教	成人看護学	受付、アンケート回収	
下地　紀靖	名桜大学・助手	成人看護学	アンケート回収	

企画実施報告(参加人数等を明記)

参加者：14名

成人看護学において、急性期看護・クリティカルケアを担当する教員が情報提供者となり、「災害看護　～災害時の院内での初動～」のテーマで情報提供した。内容は、①災害時に看護が果たす役割、災害看護各期における看護活動、②病院における発災直後の看護活動、③災害発生時に対応するための備え、④災害要支援者への対応の４項目であった。

病院における発災直後の看護活動では、小千谷総合病院が作成したDVDを用い、実際にどのような初動対応が必要かを示した。また、災害発生後に診療継続時の対応として、多数の傷病者来院時に重要となるトリアージについては、トリアージ・シミュレーションを実施した。START式トリアージを症例を提示し、参加者にもトリアージしてもらい、双方向コミュニケーションとなるよう工夫をした。また、「病院防災ガイドブック」、「3.11東日本大震災 看護管理者の判断と行動」、「[増補版]DMAT標準テキスト」等、各施設における防災・減災取り組みに活用できる書籍も紹介した。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

９人の参加者がアンケートに協力してくれた。

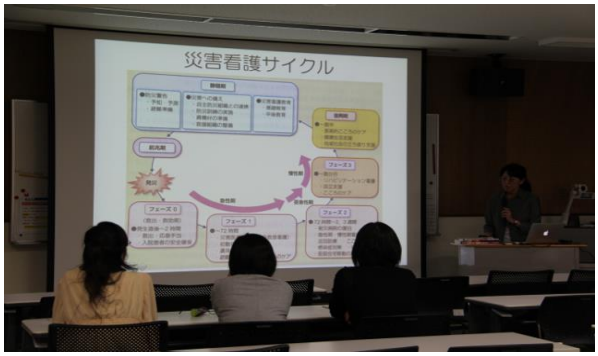
今回の研究会の総合評価（テーマ、内容など）は良かったが名、やや良かった１名であった。今回のテーマと関連した研究会への参加希望については回答者全員が参加したいと回答していた。研究会の日程・時間帯・形式については、適切だったが７名、まあ適切であったが２名であった。

自由回答では「今回のようなテーマの研修はあまり開催されないのでもう少し詳細な内容を聞きたい。学びたいです」、「地元のスタッフ対象に気軽に参加できる勉強会でとても良かった」、「災害看護では、他スタッフとのつながりもとても大切なので、顔合わせ等も含め良い機会になったと思う」などがあり、参加者の

ニーズに応えることができたようである。
今後開講して欲しいテーマには、関連した内容の「災害時、災害後の心のケアについてもう少し具体的に聞きたいです」、「実際に災害時に具体的にどのような準備が必要かを知りたいです」、「病院でも訓練等をしているのですが、何回聞いても良いと思います、イメージがわいてきます」、「“災害看護”実際具体的なもの」、
「避難誘導の実施があればうれしいです」があり、今回災害時の院内での初動に関する知識が提供され、次回は実施に関する内容が求められている。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

阪神・淡路大震災を契機として、国・自治体・医療施設などの防災体制や災害時の情報システム整備が進み、各地に災害拠点病院も設置された。1998 年に日本災害看護学会設立、2008 年に世界災害看護学会設立、2009 年度から看護基礎教育カリキュラムにおいて災害看護が導入された。また、2011 年に改正された看護師等養成所の運営に関する指導要領では、「統合分野：看護の統合と実践（４単位)」の内容として、『災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する内容とする。』が織り込まれた。ＮＰＯ法人災害看護支援機構理事長の山崎達枝氏は「刻々と変化する状況の中で被災者に必要とされる医療、および看護の専門知識を提供することであり、その能力を最大限に生かして被災地域・被災者のために働くことである。したがって、被災直後の災害救急医療から精神看護・感染症対策・保健指導など広範囲にわたり、災害における被災者・被災地域への援助だけでなく、災害サイクルすべてが災害看護の対象となる」と定義しており、災害の全サイクルに対応出来るような準備が必要とされる。
今回は、発災直後の被災病院における初動体制について情報提供を行った。参加後アンケートからも、継続した開催、実践に関する研究会開催の要望があることから、今後、災害全サイクルにおける災害看護に関する情報提供を実施していきたい。



写真：研究会の様子

第３回　乳がん体験者に対する効果的な運動

申請者氏名（代表者）	所属部門	
金城　利雄		人間健康学部看護学科 成人看護学領域

企画名

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。ルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制が必要である。

ルーラルナースが必要としているトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染対策、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告し、討議を深める。本研究会はICTを用いて、ライブストリーミングを行う。ICTによる双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行う。

企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）

金城利雄、清水かおり、下地紀靖、玉井なおみ、認定看護師、専門看護師

氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
金城　利雄	名桜大学・教授	成人看護学	企画	
清水　かおり	名桜大学・准教授	成人看護学	記録係	
下地　紀靖	名桜大学・講師	成人看護学	受付、進行	
玉井　なおみ	名桜大学・助教	成人看護学	情報提供	
西田　涼子	名桜大学・助手	成人看護学	受付、会場案	

企画実施報告(参加人数等を明記)

参加者：5名

成人看護学において、がん看護を担当する教員が情報提供者となり、「乳がん体験者の効果的な運動」のテーマで情報提供した。内容は、①乳がん再発予防と運動、②乳がん治療の副作用予防と運動、③効果的な運動とは、の３項目であった。

「乳がん再発予防と運動」に関しては統計的な情報から乳がんの早期発見・早期治療の重要性、最新のエビデンスをもとに運動の予防効果について説明、「乳がん治療の副作用予防と運動」については、最新のエビデンスと、実際に患者サロンでの説明の実際について情報提供し、「効果的な運動」では、具体的な運動強度や開始時期、運動の禁忌事項と、患者サロンで説明の実際について説明した。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

乳がんの再発予防や副作用予防としての運動の効果について最新のエビデンスに基づき情報提供を行い、情報共有ができた。

今回は学内参加者のみの開催となった。学外からの参加者はいなかったことから、研究会の開催に関する広報不足がある。関係機関への開催の案内を行ったが、今回のテーマは「乳がん体験者の効果的な運動」としており、乳がん体験者への再発予防や副作用予防としての運動の内容であることが伝わらなかったかもしれない。また、入学試験前日の開催であり直前に会場を変更するなどの調整を要したことから開催日程の見直しが必要である。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

近年、運動は乳がんの再発予防効果だけでなく、治療の副作用症状である骨粗鬆症や倦怠感に関しても予防効果が報告されている。ホルモン感受性の乳がんは 5 年経過後の再発が少なくなく、遠隔転移による再発で 5 年生存率が 28.2%と低下する。さらに、治療が長期に及ぶことから副作用予防と再発予防は重要である。このような中、2010 年米国スポーツ医学会や 2012 米国癌学会はがん体験者のための運動のガイドラインを公表し、日本乳癌学会においてもそれを受けて乳がん患者の予後に運動が乳がん患者の死亡リスクを減少させるのではと明言している。特に、運動の中でもウォーキングが、乳がんの再発予防、骨粗鬆症予防および倦怠感予防で効果が認められてきている。しかし、乳がん体験者は一般集団と比べて運動をしていない者が多いことや、外来診療という限られた時間の中では、がん体験者のがん予防行動への看護支援が十分にできていないのが現状である。

今回は、国内外の乳がんの統計から乳がんの早期発見・早期治療の大切さと、乳がんの再発予防や副作用予防と運動の予防効果について最新のエビデンスに基づき情報提供を行った。情報提供後の討議では、成人看護領域としてエビデンスのある今回のテーマに関して、臨床への啓蒙や看護学生への教育の必要性について共通認識を図った。今回、学外からの参加者がいなかったが、今後も乳がんの再発予防および副作用予防としての運動について情報提供を実施していきたい。

写真：研究会の様子

第４回　一般病棟におけるがん看護実践について

申請者氏名（代表者）	所属部門	
金城　利雄		人間健康学部看護学科 成人看護学領域

企画名

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。ルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制が必要である。

ルーラルナースが必要としているトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染対策、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告し、討議を深める。本研究会はICTを用いて、ライブストリーミングを行う。ICTによる双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行う。

企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）

金城利雄、清水かおり、下地紀靖、玉井なおみ、認定看護師、専門看護師

氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
吉澤　龍太	那覇市立病院・看護師	がん看護学	情報提供	がん看護専門看護師
金城　利雄	名桜大学・教授	成人看護学	企画	
清水　かおり	名桜大学・准教授	成人看護学	資料準備、記録係	
下地　紀靖	名桜大学・講師	成人看護学	会場案内、受付	
玉井　なおみ	名桜大学・助教	成人看護学	進行	
西田　涼子	名桜大学・助手	成人看護学	会場案内、受付	

企画実施報告(参加人数等を明記)

参加者：９名

沖縄県がん拠点病院である那覇市立病院で、専門看護師として勤務する吉澤龍太氏を講師に招き、「一般病棟におけるがん看護　～患者主体の症状マネジメント～」のテーマで講演をしていただいた。事例を用いて工夫を凝らした介入方法、患者中心の症状マネジメントの意義、痛みと眠気のバランスについての実際の患者への説明方法、痛みの期間・パターンと鎮痛剤（種類、選択方法、投与方法、効果)、鎮痛剤の自己管理と自己効力感、患者を主体とすることの意義などであった。

症状マネジメントを患者主体で行うことにより、以下のメリットがあるとまとめられた。

- 効果的な症状マネジメントが可能となる。
- 正確なアセスメントが可能となる。
- 患者の満足度とＱＯＬが高くなる。
- 看護師の負担軽減になる。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

研究会の開催にあたり、ポスターを作成し施設に配布、掲示、Facebook での案内等実施したが、残念ながら参加者が少なかった。前回の「乳がん体験者の効果的な運動」の参加者も少なかったことから、「がん看護」に対する興味・関心が低いこと、北部地域のニーズが少ないことが考えられる。

しかしながら、悪性新生物は昭和 56 年以来ずっと日本の死因第一位であり、日本人の２名に１名ががんに罹患し、３名に１名ががんによって死亡している。これらを鑑みると、北部地域にがん患者がいることは明白であり、がん看護実践の必要性があることは容易に予測できる。北部におけるがん患者、家族へのより良い看護実践をめざし、今後も「がん看護」をテーマにした情報提供をし続けていく。

参加者３名からアンケート回答があり、研究会の総合評価、研究会の開催日程・時間帯・講座形式への評価は高かった。同テーマの研究会への参加も希望していた。今後開講して欲しいテーマは、災害看護、訪問看護、専門看護師・認定看護師の専門分野に関する話が挙げられたので、検討してきたい。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

患者中心の症状マネジメントは、症状マネジメントの総合的アプローチ(Integrated Approach to Symptom Management:IASM) であり、症状を患者自身が主体的に管理するため、セルフケア能力を引き出すアプローチとされている。兵庫県立大学看護学部　IASM 研究班(代表　内布敦子)によって、The Integrated Approach to Symptom Management 看護活動ガイドブック (改訂版　Ver.9) が出されている。症状は患者しか体験できない主観的なものであり、患者自身が症状マネジメントしたほうが効果的にできるといわれている。IASM は患者のできる範囲でセルフケアを行ってもらう方法であり、医療者は患者の症状を共有し、セルフケアを行うためのサポートを行います。海外、日本ともにこの IASM を用いるほうが効果的に症状マネジメントが行えたことが明らかにされている。

IASM の流れは以下の通りである。

1. 症状の定義を明らかにする。
2. 症状のメカニズム(機序)と出現形態を理解する。
3. 患者の体験(知覚、評価、反応)とその意味を理解する。
4. 症状マネジメントの方略を明らかにする。
5. 体験と方略、その結果を明らかにし、セルフケア能力の状態で該当するレベルを判断する。
6. 看護師が提供する知識、技術、サポートの内容を決定し実施する。
7. 看護活動による効果を測定する。

The Model of Symptom Management (症状マネジメントモデル；MSM) はオレムのセルフケア理論をその背景にもったモデルであり、患者のセルフケア能力に焦点を当て、その能力を最大限活かすことを前提にしているため、他の慢性疾患患者のセルフマネジメント支援にも活用できる。生活習慣病 (糖尿病、虚血性心疾患、脳血管疾患など)、リスクファクター (高血圧、脂質異常症、肥満症など) を有する患者・家族への看護実践でも情報提供していきたい。

写真：研究会の様子

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

一般病棟におけるがん看護実践

がん看護実践のために知っておきたい“介入”のあれこれ

2013年12月13日（金）18:30—20:00
名桜大学人間健康学部看護学科棟　講義室4（3階）

がん専門看護師として活躍中の吉澤龍太さんを講師に迎え、一般病棟におけるがん患者・家族への看護介入について、事例を交えてお話いただきます。みなさんも一緒に“より良いがん看護”について考えてみませんか？

参加無料
50名

主な内容

1.「患者主体の症状マネジメント」
　吉澤龍太さん
　那覇市立病院・がん看護専門看護師

2.フリーディスカッション
　コンサルテーション

吉澤龍太さんの経歴：
沖縄県立看護大学大学院専門看護師コース修了（がん看護）、那覇市立病院にて勤務、沖縄県がん診療連携協議会研修部会員
現在、病棟活動、緩和ケアチーム活動を行い、患者・家族だけでなく苦悩している看護師への支援を心掛けている。専門看護師として活動を始めてから、年間の緩和ケアチーム依頼件数は大きく増加している。

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）では、、遠隔離島・へき地の看護職者が学習・相談できるシステム作り、知識・技術のブラッシュアップの機会を提供いたします。 看護実践に実用的なトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん看護、災害看護、慢性疾患セルフマネジメントなど）を各専門家が報告した後、フリーディスカッションを予定しています。
研究会は本学web会議システムやskypeを用いて、ライブストリーミングを行う予定です。予め、双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行います。

主催：名桜大学人間健康学部看護学科 成人看護学、共催：名桜大学看護実践教育研究センター

申し込み・問い合わせ先
看護実践教育研究センター 金城 千恵美　TEL：(0980)51-1118（直通）FAX：(0980)51-1136

第５回　臨床現場で手軽にできる補完代替療法

申請者氏名（代表者）	所属部門	人間健康学部看護学科
金城　利雄		成人看護学領域

企画名

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。ルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制が必要である。

ルーラルナースが必要としているトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染対策、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告し、討議を深める。本研究会は ICT を用いて、ライブストリーミングを行う。ICT による双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行う。

企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）

金城利雄、清水かおり、下地紀靖、玉井なおみ、認定看護師、専門看護師

氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
金城　利雄	名桜大学・教授	成人看護学	企画	
清水　かおり	名桜大学・准教授	成人看護学	物品準備、記録係	
下地　紀靖	名桜大学・講師	成人看護学	受付	
玉井　なおみ	名桜大学・助教	成人看護学	情報提供	
西田　涼子	名桜大学・助手	成人看護学	会場案内、受付	

企画実施報告(参加人数等を明記)

参加者：22 名

今回の美ら島ナース支援研究会では､｢臨床現場で手軽にできる補完代替療法　～手軽にできる５分間アロマハンドマッサージ～」を提供した。北部地区医師会病院、愛楽園からがん看護実践している看護師、アロマに興味のある教員、看護学生が参加した。

がん看護を専門としている玉井先生による補完代替医療（CAM: Complementary and Alternative Medicine）に関するミニレクチャーの後５分間アロマハンドマッサージのデモンストレーションの後、２人１組になり演習を実施した。キャリアオイルには、ホホバオイルを使用し、精油は、スィート･オレンジ、ラベンダースーパー、ローズウッド、ゆずの４種類を用意した。

補完代替療法についてのミニレクチャーでは、補完代替療法の種類、国内外の補完代替療法の利用状況などの紹介などから始まり、国内外のデータを用い、科学的根拠を示しながら、がん患者の症状緩和に一部効果が認められる補完代替療法（アロマセラピー／マッサージ、音楽療法、アートセラピー）を解説していた。また、使用上の注意点、がん患者・家族が陥りやすい補完代替療法の実情についても話された。

尚、研究会の様子は、Facebook に掲載している。

また、Facebook には、｢美ら島ナース支援研究会（Okinawa Island Nurse Support Workshop)」のページを作成し、情報公開している。

使用した精油情報

① オレンジ・スウィート 学名：Citrus sinensis 主要成分：リモネン 95%～98% 作 用：消化促進作用，精神安定作用，抗菌消毒作用（空気中殺菌作用）、うっ滞除去作用 注意事項：フロクマリン類を含んでいるため光感作作用がある。従って、塗布した肌を直射日光に 4～5 時間は当てないように注意する。

② ラベンダー 学名：Lavandula angustifolia 主要成分：酢酸リナリル 40～50%、リナロール 30～45% 作 用：鎮静作用（ストレス、不眠、神経過敏症など）、鎮痛作用、血圧降下作用、瘢痕形成作用、皮膚組織再生作用、抗菌・ウィルス作用 注意事項：特になし

③ ローズウッド 学名：Aniba rosaeodora 主要成分：リナロール 80～99%、α-テルピネオール 2～5% 主な作用：組織再生作用（皮膚炎など皮膚疾患によく用いる。皮膚の老化や乾燥、スキンケアに）、抗菌・抗ウイルス・抗真菌作用、精神安定（神経障害、神経疲労） 注意事項：特になし。

④ ゆず 学名：Citrus Junos 主要成分：リモネン 79.6%、γテルピネン 9.8% 主な作用：血行を促進し、新陳代謝を活発にして、身体を温める働きがあります。自律神経に作用し、リラックス効果も高い。利尿作用、抗菌作用、鎮痛作用、駆風作用など 注意事項：光毒性がある。トリートメント直後～半日は日光に当たらないように注意すること。皮膚を刺激することがあるので濃度に注意する。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

がん看護に関する研究会はこれで３回目である。研究会の開催にあたり、これまで同様にポスターを作成し施設に配布、掲示、Facebook での案内等実施した結果、学外から 4 名、教員 8 名、学生 10 名の参加があった。実際にがん看護に携わっている看護師の参加もあった。

参加者は気に入った精油をキャリアオイルが入った遮光瓶に加え、マッサージオイルを作成した。互いにマッサージをしていると、参加者はどんどん笑顔になり、くつろいでいく様子を感じ取ることができた。初めて会った間柄でも、話が弾んでいた。途中、部屋から漏れ出たアロマの香りに誘われて、国家試験勉強をしていた男子学生も入ってきて、アロマハンドマッサージを受け、癒やされて戻っていった。自分で作ったマッサージオイルは、持ち帰っていただいた。

12 名の参加者からアンケートの回答が得られた。総合評価では全員が「良かった」と回答していた。今回のテーマと関連した研究会への参加希望については回答者全員が「参加したい」と回答していた。研究会の日程・時間帯・形式は全項目について、全員が「適切だった」と回答していた。

今後開講して欲しいテーマには、「運動の補完代替療法」、「緩和ケアについて知りたい」、「統合医療について」、「足浴マッサージをしてほしい」、「フットケアがやってみたい」、「心の癒やしに関すること」が挙げられた。また、意見・要望等では複数の回答者から「とても楽しかったです」、「癒されました！！」との記載があった。

がん看護に関するテーマとして、これまで第１回目の乳がん患者への運動療法、第２回目のがん看護専門看護師による看護実践を開催したが、いずれも参加者が少なかった。しかし、今回は沢山の方々の参加があったことから、興味・関心のあるところから活動を広げていく。北部地域にもがんの患者・家族が生活しており、がん看護も実践されている。より良いがん看護実践のために役立つ情報を提供できるよう、これからも励んでいきたい。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

【がんの医療現場における補完代替医療の実態と問題点】

日本人の死亡原因の第 1 位は、1981 年以降、悪性腫瘍である。現在、年間 30 万人以上の人ががんで亡くなり、年間 60 万人以上の人が新たにがんになっている。さらに、今後日本は高齢化が進むにつれて、がん患者さんの人数はますます増えていくことが予測されている。しかし、がんの医療現場における補完代替医療の利用実態は最近までよく分かっていなかった。

そのような背景から 2001 年に厚生労働省がん研究助成金による研究班（「我が国におけるがんの代替療法に関する研究」班:主任研究者・ 兵頭一之介）が組織され、全国のがんの医療現場における補完代替医療の実態調査を行い、その研究結果が 2005 年 4 月に Journal of Clinical Oncology というがんの国際学術雑誌に掲載された。これは日本のがん医療現場における補完代替医療利用実態に関する、初めての大規模調査の結果である。

2001～2002 年に実施した全国アンケート調査ではがん患者の 45%が CAM を利用し、その約 9 割が健康食品であった。ホスピス・緩和ケア病棟での健康食品利用者はさらに多く 60%を超えていた。これまでの調査から CAM 利用者の特徴は、高学歴、高収入、女性、若年者、不安の強い患者、有症状の患者とされている。未だに疼痛、不安、苦悩の緩和あるいは QOL の改善に対する CAM の効果に関する現代（西洋）医学上の証拠はほとんどない。加えて本療法の中には利益もあるがリスクをもたらすものもある。

アロマセラピーとは、エッセンシャルオイル(精油)を用いて、その香りを楽しんだり、リラクセーション誘導効果を得たり、さらに病気の症状の緩和などを目的とした治療法である。なお、ここで取り上げるマッサージはリンパ浮腫に対する複合的理学療法に基づくマッサージとは異なる。

最近では、これらは緩和ケアの領域でも広く用いられるようになってきている。アロマセラピーの方法としては、芳香浴や吸入、内服、全身浴、部分浴、マッサージなどがある。なかでも、アロマセラピーにおけるマッサージが､最も介入度としては大きいと考えられる｡マッサージは 疼痛緩和の効果があるだけでなく、リラクセーション誘導効果などもあり、がんの緩和ケアに有効な補完代替医療の一つと考えられる。

エッセンシャルオイルについては、上記のとおりさまざまな薬理作用があり、副作用も当然ありうる。もっとも頻度の高いのは、皮膚に対する障害である。直接の皮膚毒性は、良品のエッセンシャルオイルを使用する限りはあまり問題とならない。多くは、アレルギーによるものと光毒性である。アレルギーによる皮膚炎を防ぐためには、施術前のパッチテストが必須である。また、光毒性は柑橘系のエッセンシャルオイルのある種の成分(ベルガプテンなど)で起こるので、これらの含有量を考慮に入れることと、これらの成分が含まれているエッセンシャルオイルを使用した場合は､12 時間ほど紫外線に暴露されないように気をつけるよう指導する。また、マッサージによる副作用はあまりないが、度を過ごすと、もみ返しなどの有害事象がでることもある。なお、一般に、がん病巣の近くのマッサージは避けるべきである。

以下は、アロマセラピー、マッサージの有効性を示すものである。

・アロマセラピーとマッサージはがん患者の身体的、心理的症状を改善するか?[推奨度:B]

QOL、Rotterdam Symptom Checklist (RSCL)、state-trait anxiety inventory(STAI)、profile of mood state (POMS) などを用いてアロマセラピー介入前後のがん患者の諸症状を評価した 結果、有意な改善を認めたと報告されている [1,3,8,9]。

・足マッサージはがん患者における自覚症状を軽減するか?[推奨度:B]

疼痛、吐き気、リラクセーションスコアはマッサージ後

・自己骨髄移植患者におけるマッサージは、自覚症状、不安・うつの改善効果があるか?[推奨度:B]

マッサージ群は対照群よりも苦痛、吐き気、STAI 尺度を有意に改善したと報告されている。 これらの症状は初回のマッサージ後に認められ、中間の時点では STAI のみに有意差があった。 最終の評価では疲労感だけに有意な改善がみられている [2]。

今回の研究会への参加者が増加したことで、アロマセラピーに興味・関心があることがわかった。今後もアロマセラピー、マッサージを初めとして補完代替療法に関する正しい知識・技術の提供をしていく必要がある。アロマセラピーは症状緩和だけでなく、患者・家族と医療者間のコミュニケーションツールとしての活用も期待される。また、アロマセラピーが心臓カテーテル検査前の患者の不安軽減に効果を示したとの報告もあることから、がん看護以外の成人看護学領域への活用も期待される。引き続き、アルマセラピー、マッサージを提供していく。

【引用・参考】

・緩和医療ガイドライン作成委員会 補完代替医療ガイドライン作業部会：がん補完代替医療ガイドライン(第 1 版)、2008、(http://www.jspm.ne.jp/guidelines/cam/cam01.pdf)

・厚生労働省がん研究助成金（課題番号:17-14)「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班独立行政法人国立がん研究センターがん研究開発費（課題番号：21 分指-8-④）「がんの代替医療の科学的検証に関する研究」班：がんの補完代替医療ガイドブック第 3 版 、 2012 、（http://www.shikoku-cc.go.jp/hospital/guide/useful/newest/cam/dl/pdf/cam_guide(3rd)20120220_forWeb.pdf)

写真：臨床現場で手軽にできる補完代替療法　～手軽にできる５分間アロマハンドマッサージ～

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

臨床現場で手軽にできる補完代替療法

5分間アロマハンドマッサージをやってみよう！

2014年1月24日（金）18:30—20:00
名桜大学人間健康学部看護学科棟　講義室4（3階）

アロマセラピーとは、芳香性のある精油（エッセンシャルオイル）を用いて、その香りを楽しんだり、リラクゼーションを得たり、さらに病気の治療や症状の緩和などに利用される治療法です。アロマセラピーががんの治療に用いられる目的としては、がん患者さんの心理状態、特に不安感やうつ症状などの精神的症状の改善効果、また、がんに伴う痛みなどの身体的症状の改善効果、抗がん剤や放射線療法の副作用を軽減する効果などです。

参加無料
25人

タオル持参

1.5分間アロマハンドマッサージ

玉井なおみ・清水かおり
（名桜大学人間健康学部看護学科成人看護学教員）

2.フリーディスカッション

※ハンドマッサージのため、Tシャツなどの軽装やタオルの持参をよろしくお願いします。

主催：名桜大学人間健康学部看護学科 成人看護学、共催：名桜大学看護実践教育研究センター

申し込み・問い合わせ先
看護実践教育研究センター 金城 千恵美　TEL：(0980)51-1118（直通）FAX：(0980)51-1136

第６回　外来患者の創傷ケア・褥瘡予防

申請者氏名（代表者）	所属部門	人間健康学部看護学科
金城　利雄		成人看護学領域

企画名

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。ルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制が必要である。

ルーラルナースが必要としているトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染対策、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告し、討議を深める。本研究会はICTを用いて、ライブストリーミングを行う。ICTによる双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行う。

企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）

金城利雄、清水かおり、下地紀靖、玉井なおみ、認定看護師、専門看護師

氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
久貝　香	沖縄県立北部病院	皮膚・排泄ケア	情報提供	皮膚･排泄ケア認定看護師
金城　利雄	名桜大学・教授	成人看護学	企画	
清水　かおり	名桜大学・准教授	成人看護学	進行､資料･物品準備、会場設営、記録係	
下地　紀靖	名桜大学・講師	成人看護学	受付、資料準備	
玉井　なおみ	名桜大学・助教	成人看護学	受付・会場案内	

企画実施報告(参加人数等を明記)

参加者：22名

今回の美ら島ナース支援研究会では、沖縄県立北部病院で皮膚･認定看護師として活躍する久貝香 氏を講師に招き「褥瘡・創傷予防ケア」のテーマで情報提供した。沖縄愛楽園、沖縄病院、北山病院北部地区医師会病院で看護実践している看護師や教員が参加した。

はじめに、褥瘡・創傷ケアについて１時間ほどの講義を行った。講義の主な内容は、創傷治療過程について、褥瘡・創傷における局所ケア（外用剤、創傷被覆材、洗浄・スキンケア）である。創傷治癒過程からみた創傷管理における注意点（炎症期を早く終了させる、感染と汚染を区別する、壊死組織が残存していないか注意する、炎症期と増殖期の境界を見極め、肉芽組織の評価）を示し、臨床現場でどのようなことを観察しアセスメントしたらよいかを症例の写真を用いて、わかりやすく説明していた。
また、局所治療の基本的な考え方として、①壊死組織の除去、②肉芽形成の促進、③創の縮小を強調していた。外用薬やドレッシング材の特徴と使い方、注意点、安全な使用、スキンケアの基本となる創洗浄の必要性、手順、注意点を説明した後、演習を行った。演習内容は、医療用固定テープとフィルムドレッシング材の正しい剥がし方、ドレッシング材の吸収性などの比較、泡洗浄効果の比較である。

今回使用した固定用テープ、創傷被覆材、洗浄剤

- 医療用固定テープには、サージカルテープ（３M)、優肌絆（日東メディカル)、エラテックス（アルケア）を用意し、フィルムドレッシング材にはポリウレタンフィルムを選択し、オプサイト* クイックロール 2way（Smith＆Nephew)、パーミロール（日東メディカル）を用意した。

- 創傷被覆材には、ハイドロコロイド剤としてデュオアクティブ ET（Convatec）、ポリウレタンフォームとてハイドロサイト* プラス（Smith & Nephew）、ハイドロファイバーとしてアクアセル(Convatec)、アルギン酸塩としてカルスタット（Convatec）、ハイドロゲルとしてレプリケアライト（Smith & Nephew）を用意した。
- 洗浄剤は、泡洗浄剤としてシャボネット（サラヤ）、泡でない洗浄剤としてキレイキレイ（LION）を用意した。

尚、研究会の様子は、Facebook に掲載している。

https://www.facebook.com/media/set/?set=a.540218086091712.1073741829.522996704480517&type=1&l=0ee4db1ce5

また、Facebook には、「美ら島ナース支援研究会（Okinawa Island Nurse Support Workshop)」のページを作成し、情報公開している。

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

研究会の開催にあたり、これまで同様にポスターを作成し施設に FAX 送信、掲示、Facebook での案内等実施した結果、学外から 11 名、教員 4 名の参加があった。現場で褥瘡・創傷ケアに携わっている看護師の参加が多かった。

12 名の参加者からアンケートの回答が得られた。総合評価では全員が「良かった」と回答していた。今回のテーマと関連した研究会への参加希望については回答者全員が「参加したい」と回答していた。研究会の日程・形式について、全員が「適切だった・まあ適切だった」と回答していたが、時間帯については「あまり適切でなかった」との回答があった（1 名)。

今後開講して欲しいテーマには、「ストーマ、スキンケア」、「褥瘡のパート２」、「スキントラブル（PEG 洩れによる発赤のケア）など」、「褥瘡予防や体位の工夫(除圧の良い方法など)」、「褥瘡予防のポジショニング」、「エンゼルメイク」が挙げられた。また、意見・要望等では「適切な創の評価の重要性を知ることができました。皮膚の状態を見極めること！　適切なケアに適切な製品を！」、「実際にドレッシング材やその吸水性などが見れて、楽しく学べました」、「泡立てて行うことも勉強になりました、ドレッシング材などもよくわかりました」、「演習があってよかった」などの実際の製品を使用した演習の効果が感じられる意見、「今日の講義を職場でも生かしていきたい」、「日頃行っているテープの貼り方、はがし方を気を付けて行っていきたいと思います」と現場への還元を意識した意見、また複数の回答者から「とても分かりやすい講義で楽しかった」という意見があった。

北部地域には、訪問介護施設が 35、通所介護施設が 45、通所リハ施設が 9、居宅介護支援施設が 41、ショートステイ施設（医療含）が 12、グループホームが 4 設置されている。これらの施設では褥瘡予防ケア・発生後のケアが必要であることは容易に推測できる。施設利用者の褥瘡・創傷予防ケア、発生後ケアが充実するよう、今後も情報発信をしていきたい。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

2014 年 2 月 12 日、中央社会保険医療協議会は厚生労働省に「平成２６年度診療報酬改定」を答申した。個別改定項目の【重点課題１－３　在宅医療を担う医療機関の確保と質の高い在宅医療の推進について】では、「在宅における褥瘡対策の推進」が挙げられており、入院時の褥瘡保有率が増加傾向であることを踏まえ、在宅における褥瘡対策を推進するため、訪問看護利用者に対して褥瘡のリスク評価の実施等を訪問看護管理療養費の算定要件とし、褥瘡患者数等の報告を求めるとともに、多職種による褥瘡対策チームの活動について評価を行う、という基本的な考え方が示された。具体的な内容は、1. 訪問看護において、褥瘡のリスク評価及び褥瘡患者数等の報告を行う、2. 多職種から構成される褥瘡対策チームが、褥瘡ハイリスク患者であっ て既に DESIGN 分類 d２以上の褥瘡がある患者に対し、カンファレンスと 定期的なケア等を実施した場合に評価を行うことである。「在宅患者訪問褥瘡管理指導料　750 点」が新設された

【重点課題１－１－１(医療の機能分化等／効率的な入院医療等の評価)－①】 の「看護配置の手厚い病棟における基準の見直し」における一般病棟用の重症度、医療・看護 必要度、【重点課題１－１－１(医療の機能分化等／効率的な入院医療等の評価)－②】の「質の高い集中治療の評価について」におけるハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度では、評価項目において、これまで「1 創傷処置」の表示が「1 創傷処置 ①創傷処置　②褥瘡処置」と追加されている。

また、【重点課題１－１－４(医療の機能分化等／効率的な入院医療等の評価)－①】においては、「医療を提供しているが、 医療資源の少ない地域に配慮した評価」が挙げられ、具体的な内容の 2.チーム医療等に関する専従要件等の緩和を行うでは「褥瘡ハイリスク患者ケア加算（特定地域） 250 点」が新設された。

以上のように、平成 26 年度診療報酬改定では、褥瘡対策が織り込まれており、臨床現場が十分対応できるような知識・技術のブラッシュアップが必要になる。実際に、「在宅患者訪問褥瘡管理指導料」には算定要件があり、在宅褥瘡対策について十分な経験を有し、褥瘡等の凍傷ケアに係る適切な研修を終了した者を含んでいることが記載されている。
受講者の次回開催ニーズも高いことから、次年度も引き続き「褥瘡・創傷予防ケア」について研究会を開催していく。
以下は、褥瘡・創傷予防ケアと発生後ケアについて、重要なポイントを記述する。今後の研究会でも、そのポイントを押さえながら、テーマの選定や内容について決定していく予定である。

＜褥瘡・創傷予防ケアと発生後ケア＞
褥瘡・創傷ケアの基本は予防であり、そのためには個々の褥瘡発生の危険性を予測することが必要である。褥瘡発生リスクの程度や発生要因の情報をもとに適切な予防介入が行われれば、褥瘡発生を低減できる。褥瘡・創傷予防ケア・褥瘡・創傷発生時ケアは、日常的にアセスメントツールや観察による判断が必要である。また、体圧分散用具についての知識が必要である。褥瘡・創傷発生後ケアのアルゴリズムは、対象者のポジショニング、クッションまたはマットレス選択、体位変換、患者教育、スキンケア、物理療法、運動療法を選択・実施する。

皮膚欠損用のドレッシング材である創傷被覆材は「高度管理医療機器」に分類され、医師の指示のもと使用することが原則である。外用剤も同様に医師の処方のもと使用することが原則である。滲出液は蛋白に富み、創傷治癒にかかわる様々な炎症細胞、サイトカイン、増殖因子などを含んでいる。滲出液で潤った湿潤環境の中では、表皮細胞より迅速に分裂、移動し、傷が早く治癒する。これが湿潤環境下療法である。滲出液が多い場合、滲出液吸収作用を有する外用剤を使用し湿潤環境の適正化を図り、適切な滲出吸収能をもつドレッシング剤を用いることが重要である。滲出液が少ない場合、水分を補う作用（補水作用）を有する外用剤を使用し、湿潤環境の適正化を図り、創が乾燥しないよう湿潤環境を維持できるドレッシング剤を選択する。

褥瘡・創傷予防ケア、褥瘡・創傷発生後ケアの手順や方法を十分に理解することが、患者の安楽と安全につながる。また、スキンケア、褥瘡発生予防・発生後の危険因子として考慮すべき基礎疾患、併存疾患、栄養状態、全身的な感染管理、創アセスメントに基づいたドレッシング剤・外用剤の使用が重要である。様々な要因から皮膚が脆弱になっている高齢者には、皮膚表面をいかに傷つけないようにするかが重要である。また、そのような脆弱な皮膚保護にはドレッシング材が効果的である。

＜参考文献＞

1. 2014 年 2 月 12 日 中央社会保険医療協議会総会資料：中医協 2014 診療報酬改定項目別、
http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000037464.pdf
2. 安酸史子監修、正野逸子ら編集：ケアリングに基づく看護技術支援マニュアル、第Ⅱ章 ケアリングに基づく看護技術支援の方法「褥瘡ケアと観察」. 東京、メヂカルフレンド社、p159-171、2013. 3

写真：第 6 回研究会の様子

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

褥瘡・創傷予防ケア

泡洗浄の効果、テープ･ドレッシング材の選び方･剥がし方

2014年2月28日（金）18:30—20:00

名桜大学人間健康学部看護学科棟 成人看護実習室（2階）

皮膚･排泄ケア認定看護師として活躍中の久貝香さんを講師に迎え、在宅における褥瘡･創傷予防ケアについて、最新の知識と技術を提供します。
みなさんも一緒に“在宅での褥瘡・創傷予防”について考えてみませんか？

1. ミニレクチャー

「褥瘡・創傷予防ケアのポイント」

講師：久貝 香さん
（沖縄県立北部病院
皮膚･排泄ケア認定看護師）

2. 演習

- 泡洗浄効果の比較
- テープ・ドレッシング材の選び方・剥がし方

3. フリーディスカッション

主催：名桜大学人間健康学部看護学科 成人看護学、共催：名桜大学看護実践教育研究センター

申し込み・問い合わせ先
看護実践教育研究センター 金城 千恵美　TEL：(0980)51-1118（直通）FAX：(0980)51-1136

第７回　緩和ケア病棟におけるがん看護実践

申請者氏名（代表者）	所属部門	人間健康学部看護学科
金城　利雄		成人看護学領域

企画名

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られている。ルーラルナースは、関連する他の専門職に関わる役割も担うことが多く、その役割を果たすためには広範囲の知識が要求される。ルーラルナースが学習や相談を受けられるようなサポート、知識・技術のブラッシュアップをはじめとする支援体制が必要である。

ルーラルナースが必要としているトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染対策、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告し、討議を深める。本研究会はICTを用いて、ライブストリーミングを行う。ICTによる双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行う。

企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）

金城利雄、清水かおり、下地紀靖、玉井なおみ、認定看護師、専門看護師

氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
濱田　香純	アドベンチストメディカルセンター	がん看護	情報提供	緩和ケア病棟看護師
清水　かおり	名桜大学・准教授	成人看護学	企画、進行、記録係	
下地　紀靖	名桜大学・講師	成人看護学	会場設営、受付	
玉井　なおみ	名桜大学・助教	成人看護学	会場設営、受付	
西田　涼子	名桜大学・助手	成人看護学	受付・会場案内	

企画実施報告(参加人数等を明記)

参加者：９名

今回の美ら島ナース支援研究会では、アアドベンチストメディカルセンターの緩和ケア病棟看護師として活躍中の濱田香純氏を講師に招き「緩和ケア病棟におけるがん看護実践」のテーマで情報提供した。濱田氏はがん看護専門看護師コース修了しており、理論と実践が統合された看護を提供している。関心のある看護教員、学生が参加した。濱田氏ご自身もがんを体験されており、現在は、サバイバーナースの会「ぴあナース」のメンバーとしても活動されている。今回の講演は、体験者、実践者、教育研究者の立場で話されており非常に貴重な内容であった。

講義の内容は、⑴緩和ケア病棟の特徴、⑵一般病棟との実践の共通点・相違点、⑶私のがん体験と全人的ケアの必要性、⑷現在のがん対策と私の活動であり、病棟の事例やご自分の体験を交え、大変わかりやすく話していただいた。

講義の初め、参加者に「緩和ケア病棟のイメージ」を語ってもらい、⑴⑵の話の後、緩和ケア病棟は「がんによる心と身体の苦痛をやわらげ、患者さまやご家族がその人らしい生活を送れるところ」と捉え看護実践していると説明された。

⑶全人的ケアでは、身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルペインについて、それぞれ事例を提示し、抱えている苦痛の表出方法やその介入について話された。特に、身体的苦痛の緩和における薬物の使用方法については、ご自身の体験した薬物の使用とその副作用での苦痛を語り、参加者は改めて適切な薬物使用の大切さを理解することができた。また、家族ケアについても話され、使用している看取りのパンフレットや看取りのパスについて紹介された。遺族ケアについては、必要な情報を「思いでノート」に記しすぐに対応出来る工夫、手紙送付、偲ぶ会の開催や、グリーフワークおきなわ（GWO）の取組も紹介された。

⑷現在のがん対策と私の活動では、小児がん対策、がん患者の就労支援に焦点を当て話していただいた。「がんを経験した看護師が両方の立場からの視点で、 がん患者と家族を支援する」という目的で設立されたサバイバーナースの会「ぴあナース」の活動である①「ピアカウンセリング・ナース」養成研修会の開催、②がん患者と家族のための交流会「なまくま Café」の開催や助成を受けて活動も話された。また、がんサバイバーの就労の困難さとその支援について話された。
最後に、新たに小児がんサバイバーの体験の分かち合い、悩みの相談 （勉強･仕事･結婚･保険） 、小児がん患者と家族への支援として活動している「小児がん経験者の交流会 ～Ti-da わらばーむ～」についても話された。

尚、研究会の様子は、Facebook の「美ら島ナース支援研究会 (Okinawa Island Nurse Support Workshop)」のページに掲載している。
https://www.facebook.com/media/set/?set=a.551381611642026.1073741831.522996704480517&type=1&l=94f5f571e1

企画の実施評価、および今後の取組み

がん看護に関する研究会はこれで４回目である。研究会の開催にあたり、これまで同様にポスターを作成し施設に FAX 送信、掲示、Facebook での案内等実施し、教員２名、学生３名の参加があった。がん看護実践に興味のある学生は、春季休業中にもかかわらず参加してくれた。

がん看護に関するテーマとして、これまで第１回目の乳がん患者への運動療法、第２回目のがん看護専門看護師による看護実践を開催したが、いずれも参加者が少なかった。第３回目の臨床現場で手軽にできる補完代替療法～手軽にできる５分間アロマハンドマッサージ～は比較的参加者が多かったが、その大半が学内者であった。北部地域にもがんの患者・家族が生活しており、がん看護も実践されていると考えるが、４回のがん看護に関する研究会への参加度を評価すると、現場のニーズ、優先度が低いことが考えられる。
摂食・嚥下障害者ケア、褥瘡・創傷予防ケアへの学外者参加が多いことを考慮すると、施設で療養する高齢者への看護実践についてのニーズ、優先度が高いように感じる。

次年度の美ら島ナース支援研究会は、今年度の実績を振り返り、施設で療養する高齢者への看護実践に関するテーマを中心に展開していく。
がん看護に関しては、看護学生の関心が高いことが考えられ、学生対象の講演会等を企画しすすめていく。

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

緩和ケア病棟におけるがん看護実践について

～がんを体験したホスピスナースからのメッセージ～

参加無料

2014年3月14日（金）18:30—20:00

名桜大学人間健康学部看護学科棟　講義室4（3階）

アドベンチストメディカルセンターの緩和ケア病棟看護師として活躍中の濱田香純さんを講師に迎え、緩和ケア病棟におけるがん看護実践について、お話いただきます。濱田さんご自身もがんを体験されており、現在は、サバイバーナースの会「ぴあナース」のメンバーとしても活動されています。

- 緩和ケア病棟の特徴
- 一般病棟との実践の共通点・相違点
- 私のがん体験と全人的ケアの必要性
- 現在のがん対策と私の活動
  （小児がん対策、がん患者の就労支援）
- フリーディスカッション

講師：濱田 香純さん

アドベンチストメディカルセンター・緩和ケア病棟看護師・がん看護専門看護師コース修了

主催：名桜大学人間健康学部看護学科 成人看護学、共催：名桜大学看護実践教育研究センター

申し込み・問い合わせ先
看護実践教育研究センター 金城 千恵美　TEL：(0980)51-1118（直通）FAX：(0980)51-1136

Okinawa Island Nurse Support Workshop（美ら島ナース支援研究会）

回	開催日	テーマ	情報提供者
第１回	2013 年 ９月 27 日(金)	摂食・嚥下障害ケア	和光園・加藤節子 （摂食･嚥下障害認定看護師）
第２回	10 月 25 日(金)	災害時の院内での初動	名桜大学・清水かおり
第３回	11 月 15 日(金)	乳がん体験者に対する効果的な運動	名桜大学・玉井なおみ
第４回	12 月 13 日(金)	一般病棟におけるがん看護実践について ～患者主体の症状マネジメント～	那覇市立病院・吉澤龍太 （がん看護専門看護師）
第５回	2014 年 １月 24 日(金)	臨床現場で手軽にできる補完代替療法 ～手軽に行えるアロママッサージ～	名桜大学・玉井なおみ、清水かおり
第６回	２月 28 日(金)	褥瘡・創傷予防ケア	沖縄県立北部病院・久貝香 （皮膚・排泄ケア認定看護師）
第７回	３月 14 日(金)	緩和ケア病棟におけるがん看護実践について　～がんを体験したホスピスナースからのメッセージ～	アドベンチストメディカルセンター・濱田香純（がん看護専門看護師コース修了）

開催場所：名桜大学 北部地域看護系医療人材育成支援施設 看護学科棟 ３階 講義室４

開催時間：18:30～20:00

企画の目的・概要

沖縄本島の遠隔離島・へき地で勤務する看護職（以下ルーラルナース）はその地理的特徴から継続教育の機会が得られにくく、知識・情報入手手段も限られています。そこで、ルーラルナースが学習・相談できるシステム作り、知識・技術のブラッシュアップの機会を提供いたします。ルーラルナースの看護実践に実用的なトピック（摂食・嚥下障害ケア、がん患者・体験者への支援、応急処置・心肺蘇生法、災害看護、創傷ケア、感染管理、慢性疾患コントロールなど）を各専門家が報告した後、フリートークを予定しています。

研究会は本学 web 会議システムや skype を用いて、ライブストリーミングを行う予定です。予め、双方向でのコミュニケーションが出来るようにインターネットリテラシー提供も行います。

申し込み・問い合わせ先

○清水かおり：kaoris@meio-u.ac.jp　Tel：(0980)51-1260（直通）
○看護実践教育研究センター 金城 千恵美 E-mail：c.kinjo@meio-u.ac.jp　TEL：(0980)51-1118（直通）FAX：(0980)51-1136

主催：名桜大学人間健康学部看護学科 成人看護学、共催：名桜大学看護実践教育研究センター